

# ドイツ 最終処分場選定プロセスと 市民参加

2018年3月27日

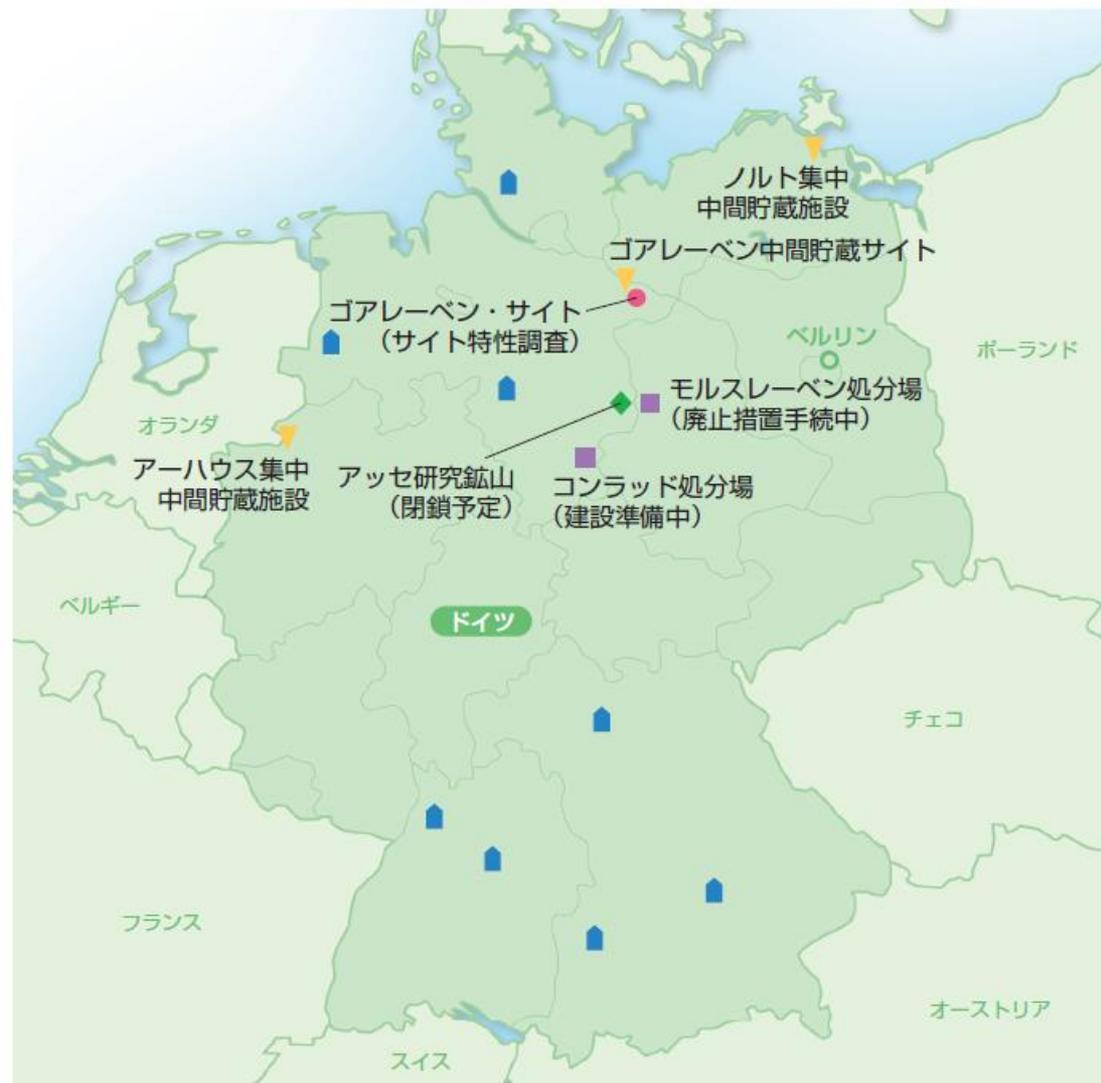
国際環境NGO FoE Japan

吉田明子

[yoshida@foejapan.org](mailto:yoshida@foejapan.org)

# ドイツの核廃棄物関連施設

## 合意形成プロセス の模索を

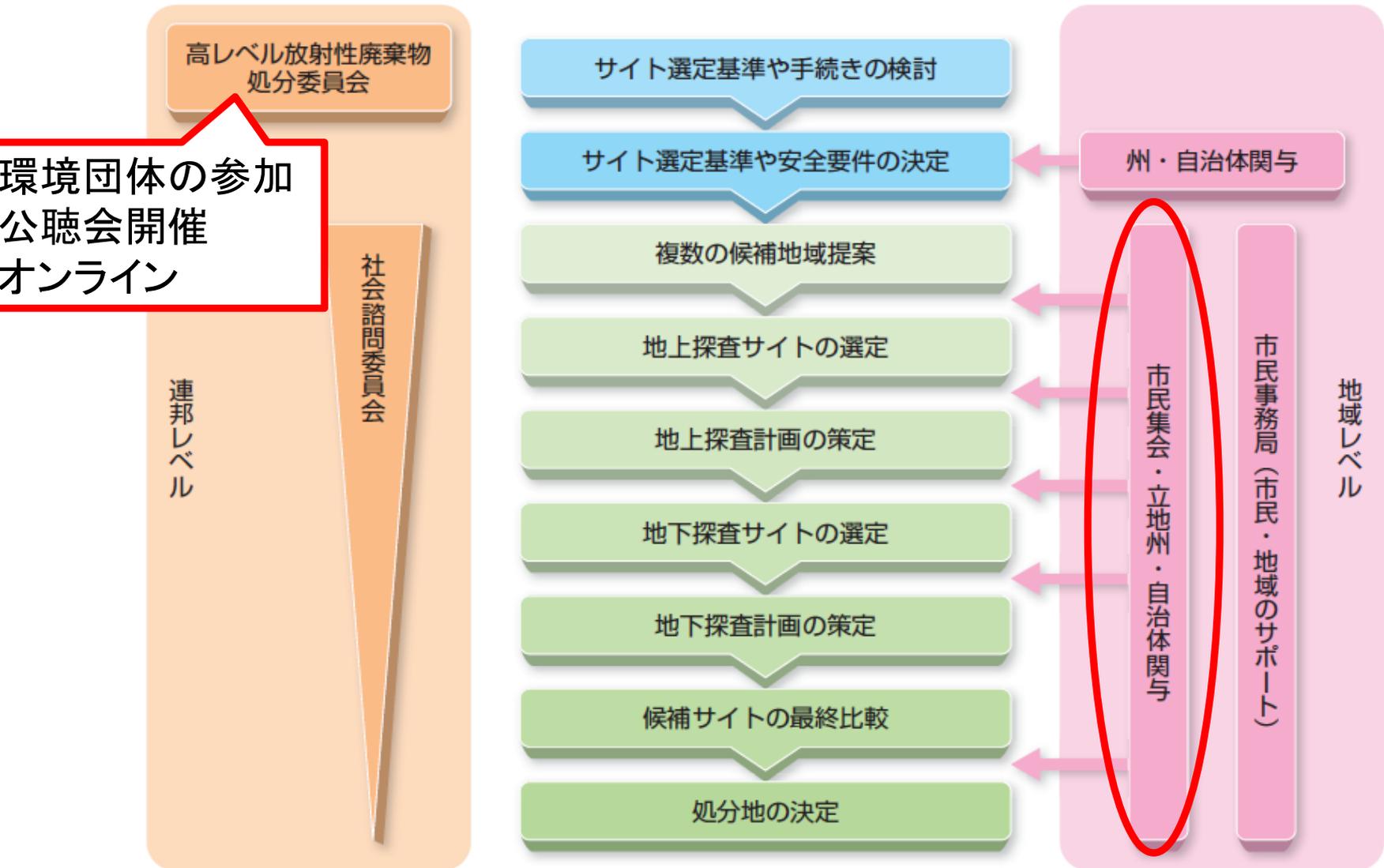


🏠	原子力発電所 (商業用、運転中)
🟪	放射性廃棄物処分場
🟩	地下研究施設
📍	集中中間貯蔵施設
🔴	処分場候補地・特性調査施設

出典：  
原子力環境整備促進・  
資金管理センター

# サイト選定法(2013年)概要

## 最終処分場選定プロセスと市民参加



出典: 原子力環境整備促進・資金管理センター

サイト選定における公衆参加

# ドイツ・最終処分場委員会の構成

## 委員長(2名): 議決権無し

- ウルズラ・ハイネン=エッサー(キリスト教民主同盟: CDU)
- ミヒャエル・ミュラー(社会民主党: SPD)

※交代で委員長を務める

## 学術界代表(8名): 議決権あり

- 地質学者: 2名
- 化学者: 1名
- 法学者: 2名
- 土木工学者(土壌・岩盤工学): 1名
- 物理学者: 2名(うち1名は哲学の学位も保有)

## 社会グループ代表(8名): 議決権あり

- 労働組合: 2名
- 経済団体: 2名 (E.ONの関係者も)
- キリスト教会: 2名 (カトリック、プロテスタント各1名)
- 環境団体: 2名

## 連邦議会代表(8名): 議決権なし

- キリスト教民主・社会同盟(CDU/CSU): 4名
- 社会民主党(SPD): 2名
- 左派党: 1名
- 緑の党: 1名

## 連邦参議院代表(8名): 下記8州から各1名、議決権なし

バーデン・ヴュルテンベルク州\*、バイエルン州\*、メクレンブルク・フォアポンメルン州、ニーダーザクセン州\*、ノルトライン・ヴェストファーレン州、ザクセン州、ザクセン・アンハルト州、シュレスヴィヒ・ホルシュタイン州\*

# 2014年4月、参加を決定

- クラウス・ブルンスマイヤー氏 (Klaus Brunsmeier)  
1958年生まれ、国土保全技術士  
2007年からFoEドイツ(BUND)の代表代理(副代表)  
1998～2007年まで BUNDノルトライン・ヴェストファーレン州代表。2010年よりZDFの評議委員 ほか



2013年11月の時点では、BUNDは参加しない方針。

- ・原子力産業にかかわりの深い人がメンバーの大半を占める。
- ・核のゴミに責任があるのは産業界。
- ・負担が大きい無償奉仕

⇒しかし、「サイト選定法」改訂と市民参加が重要議題にすえられたことなどにより、参加へ。2015年に再度団体内で評価。

# 2016年6月「最終報告書」

## 『将来への責任—最終処分場選択のための公平かつ透明性の高い手法—』

1. 放射性廃棄物の最終処分は地層処分とし、処分場立地地域には、可能な範囲で最善の安全性確保を図る。
2. 旧処分場候補地であるゴアレーベンは、サイト選定手続きから除外されない。
3. 決定の可逆性と廃棄物の取り出し可能性を担保する。
4. 可能な限り高い安全性を有する1カ所の処分場サイトを3段階の手続きにより選択し、連邦法で確定する。
5. 処分場候補地点の母岩は、岩塩層、粘土層、結晶質岩とする。地質学的除外条件や最低要件(地下水、地震等)の基準等も規定
6. 新たな処分実施体制の整備。

訳:原子力資料情報室

↑FoEドイツはこの報告書採択に反対

# FoEドイツ(BUND)のポジション(2012~)

1. 最終処分場探しのプロセスを白紙から
2. ゴアレーベン候補は除外すべき  
(地質学的にも不適、また住民の合意なし)
3. まずは脱原発の実現を
4. 核廃棄物輸出は禁止すべき
5. 広く開かれた市民参加プロセス
6. 国の責任と主導で
7. 原子力事業者から独立した専門家の養成
8. 費用は事業者負担とすべき

# 今後のプロセス



BUNDウェブサイトより

このプロセスに伴走する「社会諮問委員会」が2017年に発足<sup>8</sup>

# 「社会諮問委員会」とは

- Nationales Begleitgremium  
(議論に伴走する委員会)
- 役割は、「最終処分場委員会」での議論  
(決め方についての議論)と、  
実際の処分場候補地選定(実際プロセス)  
との橋渡し
- 情報共有、透明性、対話、コミュニケーション、  
参加機会の提供

# メンバー

- 現在は9名⇒今後18名に
- うち3名(今後6名)が無作為に選ばれた市民委員「偶然市民」と呼ばれ、1人は16～27歳の中から
- ミランダ・シュラーズ氏、クラウス・ブルンスマイヤー氏、クラウス・テプファー氏ほか学識者など



# 「社会諮問委員会」と選定プロセス

## Aufgaben

„Aufbau und Erhalt einer Kontinuität des Vertrauens zwischen den handelnden Akteuren“

NATIONALES BEGLEITGRIEMUM

